

浜岡原子力発電所における津波裕度向上対策のうち 原子炉建屋内浸水防止対策等について

2011年5月6日

当社は現在、東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日発生)で被災した東京電力(株)福島第一原子力発電所の状況を踏まえ、津波に対する裕度向上を図るための対策を進めています。

([2011年3月15日](#)、[3月22日](#)お知らせ済み)

これら対策のうち、「発電所構内に津波の浸入を想定した防水構造扉の信頼性強化」について、原子炉建屋内に設置されたディーゼル発電機等の浸水を防止するため、以下の対策について計画し、工事をおこなうこととしましたのでお知らせします。工事は、5月末に完了予定です。

- ① 原子炉建屋外壁の防水構造の扉等の補強
- ② 換気空調用の給排気口や配管等の建屋貫通部からの浸水防止対策
- ③ 原子炉建屋内への浸水を想定した排水設備の充実

また、緊急安全対策として実施した可搬式動力ポンプ等による水源の確保について、手段の多様化を図るため、発電所敷地西側の新野川から可搬式動力ポンプを用いて取水できるよう、必要な資機材および手順を整備します。これについても、5月中旬に完了予定です。

当社は、引き続き、浜岡原子力発電所の津波に対する裕度向上対策を進めるとともに、今後も情報収集に努め適切な対応をすみやかに実施してまいります。

添付資料: 津波裕度向上対策のうち原子炉建屋内浸水防止対策について(概要)

以上

津波裕度向上対策のうち原子炉建屋内浸水防止対策について(概要)

■ はじめに

原子炉建屋内に設置されている原子炉隔離冷却系設備やその電源設備(蓄電池)、非常用ディーゼル発電機等の浸水による被害を防止するための対策を実施します。

なお、これらの対策は、5月末に完了予定です。

■ 想定浸水高さ

原子炉建屋内への浸水防止対策の検討にあたっては、福島第一原子力発電所の状況を踏まえ、検討の仮定として発電所構内の浸水高さを T.P.+15m と想定しました。3、4号機では敷地高+9m、5号機では敷地高+7mの高さになります。

※ T.P.とは、東京湾平均海面(Tokyo Peil)の略で、浜岡原子力発電所では標高の基準となる海水面の高さを T.P.で表示しています。

■ 浸水防止対策の実施項目

(1) 原子炉建屋外壁の防水構造扉等の補強

原子炉建屋外壁の防水構造扉等について、浸水による水圧および波力による破損・変形を防止するための補強をおこないます。

	3号機	4号機	5号機
防水構造扉等の補強箇所	13箇所	14箇所	18箇所

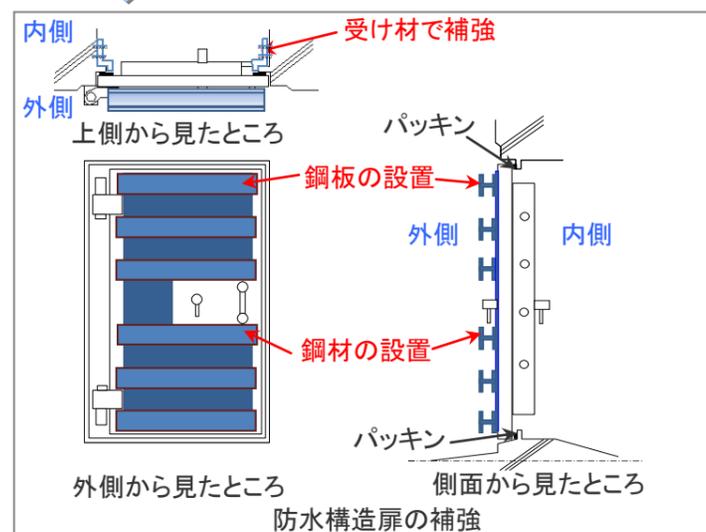
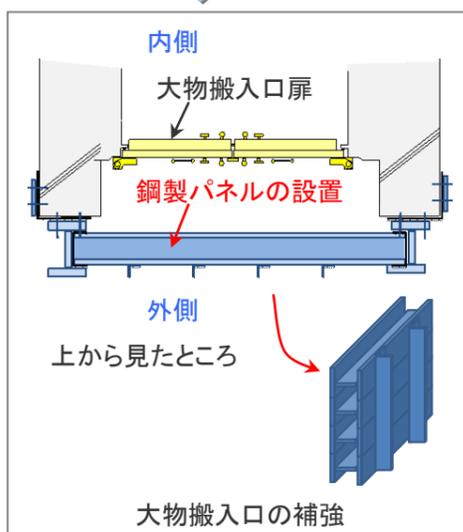


3号機 大物搬入口の例



3号機 防水構造扉の例

- その他、建設時に機器の搬入等で使用し、現在は使用予定のない搬入口については、鉄筋コンクリートの壁を設置し、搬入口を塞ぎます。



(2) 換気空調用の給排気口や配管等の建屋貫通部からの浸水防止対策

原子炉建屋外壁に設置している換気空調用の給排気口のうち、想定浸水高さよりも低い位置にあるものについて、給排気口の形状を変更する等の対策を講じ、原子炉建屋内への浸水を防止します。

また、配管等の建屋貫通部についても、隙間に閉止版の設置や止水材の追加により、防水機能を向上します。

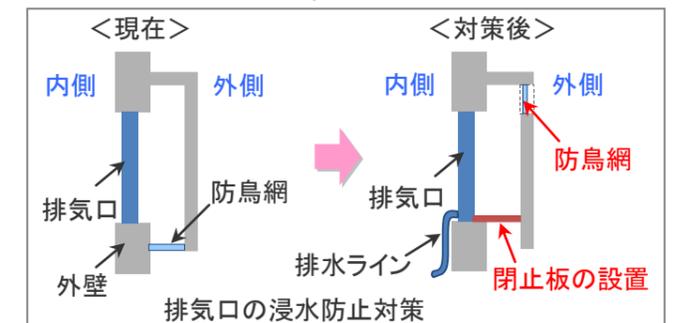
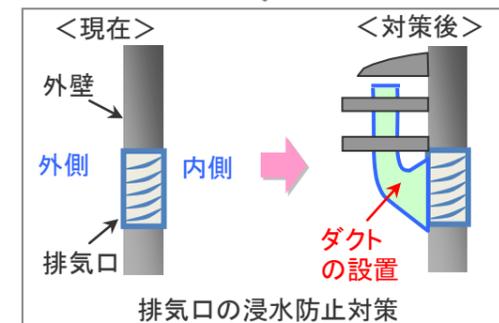
	3号機	4号機	5号機
換気空調用の給排気口の対策箇所	0箇所	2箇所	6箇所
配管等の建屋貫通部の対策箇所	162箇所	121箇所	95箇所



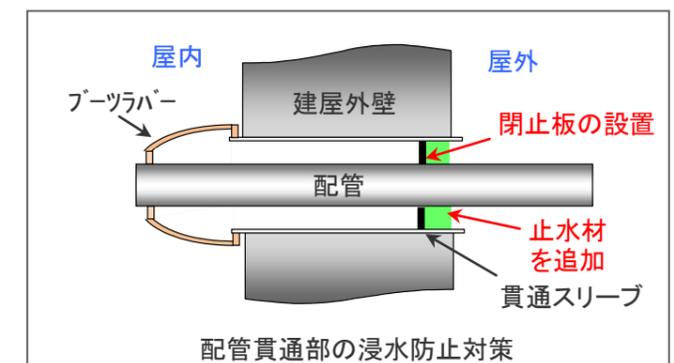
5号機 補機室排気口の例



5号機 非常用ディーゼル発電機室排気口の例



配管貫通部(屋内)の例



(3) 原子炉建屋内への浸水を想定した排水設備の充実

上記の対策とあわせて、万が一、原子炉建屋内に浸水した場合に備えて、仮設排水ポンプ(発電所内に14台配備済み)による排水手順の作成および訓練をおこない、実効性の向上を図ります。